

# 産官学で行う空き家利活用を通じたまちづくり

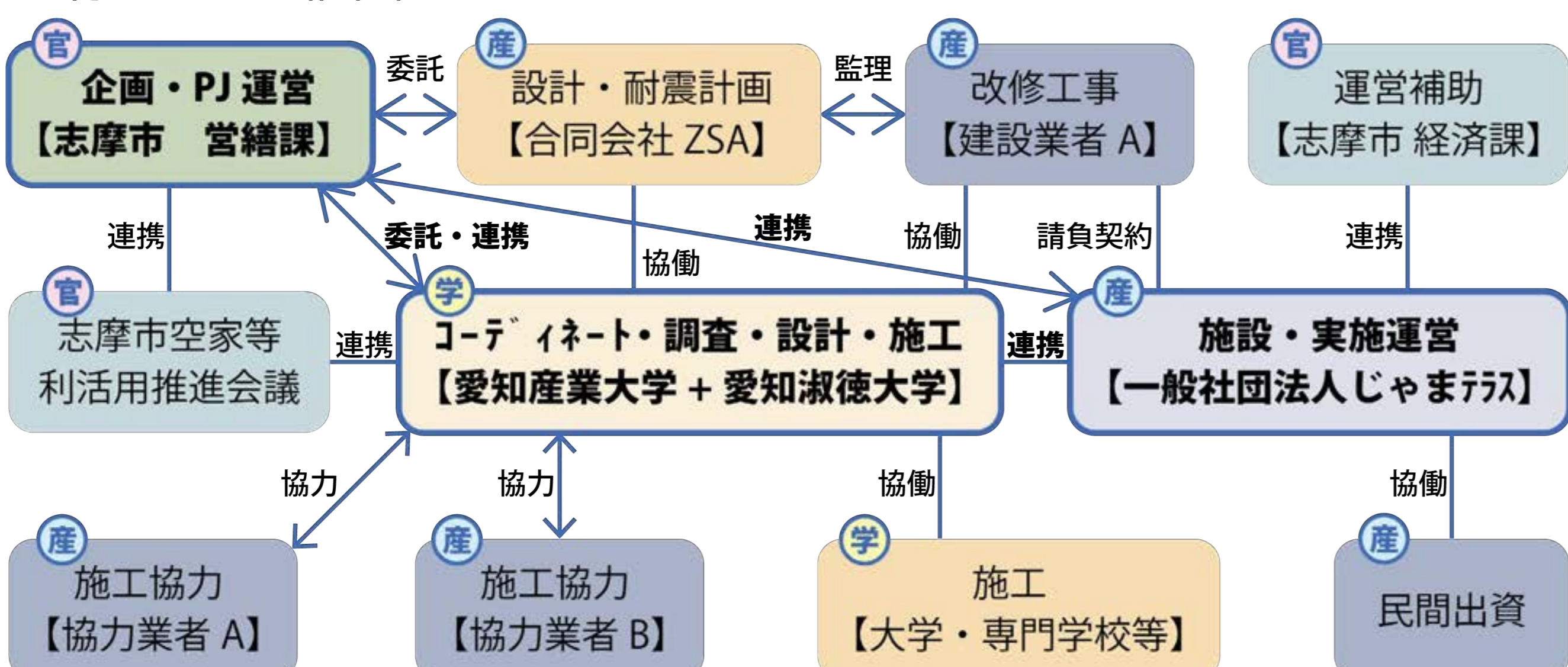
三重県志摩市波切地区での実践

造形学部 建築学科 寺嶋 利治



## 空き家利活用に向けた産官学の連携

日本全国で空き家が増加し景観悪化や災害リスクなどの問題を引き起こしている。特に人口減少が著しい地方部では、空き家を利活用し、地域の活性化を図ることが急務である。本プロジェクトは、産官学が連携して社会課題(空き家・地域活性)に取り組むものである。現在は三重県志摩市をフィールドとし、空き家を地域資源として活用するため、調査、設計、施行を3年計画で行っている(図1)。



## 2025年度 波切らしい改修デザイン

2年目(2025年度)は、エリア全体をホテルに見立てて計画を進めていった(図6)。地域にある飲食店やカフェ、お土産店なども連携をとり、当該施設だけでなく既存施設や店舗を含めて地域全体が活性化するような計画を目指している。学生とともに既存建物の実測・図面化を行ない、波切らしい改修デザインを1年かけて検討していった(図7)。



## 2024年度 地域の特徴のリサーチ

1年目(2024年度)は、産官学の体制で行う利点を活かし、まち歩き(図2,3)や地元小中学生へのアンケート(図4)、ワークショップ(図5)など様々なリサーチやワークを丁寧に行なった。



型にはまった活動や社会課題の理解ではなく、波切地区が直面している課題や本当に必要な場のあり方を議論し、空き家をリノベーションし、民泊+駄菓子カフェの機能を持つ地域コミュニティの拠点を計画することとなった。



## 2026年度 地域資源を活かしたDIY

3年目(2026年度)は、改修工事がスタートする。一部の仕上げ工事や家具工事を地域資源を活用したデザインとするためのリサーチや検討を進めている(図8)。年度末のオープンに向けてこれまでの活動を冊子にまとめて、三重県志摩市の他地区での継続した実践へ繋げようとしている(別添資料)。

